

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立豊海小学校

学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、児童一人一人のよさや可能性を十分に伸ばすとともに、心豊かでたくましく生きる子どもの育成を目指し、区民の信頼と期待に応える調和のとれた教育を推進する。

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・一人一人の児童の個性や能力を生かし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。
- ・確かな学力の向上を目指し、一人一人の児童のもつ資質や能力を把握し、個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な内容を習得させ、それらを活用して探究できる魅力ある授業を実施する。

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、 4年生は、全国平均と比べると、全ての項目で平均を上回っている。 区平均と比べると、「話し合いの内容を聞き取る」0.1pt、「言葉の学習」2.7ptが平均を下回っている。 5年生は、全国平均と比べると、全ての項目で平均を上回っている。 区平均と比べると、「話し合いの内容を聞き取る」4.9pt、「漢字を読む」2.2pt、「漢字を書く」6.1pt、「言葉の学習」0.3pt、「物語の内容を読み取る」0.8pt、「説明文の内容を読み取る」3.6pt、「学校を紹介する新聞を作る」1.8pt、「文章を書く」2.8ptが平均を下回っている。 6年生は、全国平均と比べると、全ての項目で平均を上回っている。 区平均と比べると、「漢字を読む」1.0pt、「漢字を書く」0.9pt、「説明文の内容を読み取る」0.1pt、「調べたことをもとにポスターをかく」1.9pt、「文章を書く」1.4ptが平均を下回っている。	話し合い活動を制限してきたため、体験の不足が考えられる。読書量も個人差が大きく、読書指導も指導者によってまちまちになっている。 語彙や文型の習熟を図るための書く活動が普段から少ないことが要因として考えられる。
算数・数学	「令和5年度学習力サポートテスト」において、 4年生は、全国平均と比べると、全ての項目で平均を上回っている。 区平均と比べると、「かけ算」0.5pt、「□を使った式」0.5pt、「円と球・三角形」0.9ptが平均を下回っている。 5年生は、全国平均と比べると、10項目中6項目が平均を上回っている。 区平均と比べると、「億と兆・概数の表し方」7.3pt、「わり	低学年で学ぶ四則計算の計算の過程を正しく理解し、定着させていく時間が少ないと考えられる。習熟を図る時間も少ないため個人差が大きく、小さい頃から教科に苦手意識をもつ児童が少なくない。

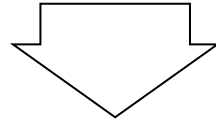
	<p>算・計算のきまり」6.2 pt、「小数」5.6 pt、「分数」1.0 pt、「いろいろな形」4.7 pt、「面積」2.9 pt、「角の大きさ」2.1 pt、「変わり方調べ」7.7 pt、「簡単な場合についての割合」5.7 pt、「折れ線グラフと表」7.9 pt が平均を下回っている。</p> <p>6年生は、全国平均と比べると、全ての項目で平均を上回っている。</p> <p>区平均と比べると、「整数のなかま分け」4.3 pt、「小数の計算」4.2 pt、「分数の計算」8.1 pt、「多角形と円・合同」2.9 pt、「面積」1.7 pt、「立体と体積」3.9 pt、「比例・単位量あたりの大きさ」3.7 pt、「割合」3.1 pt、「円グラフや帯グラフ」6.5 pt が平均を下回っている。</p>	
<p>社 会</p>	<p>「令和5年度学習力サポートテスト」において、4年生は、全国平均と比べると、全ての項目で上回っている。</p> <p>区平均と比べると、「工場の仕事」0.5 pt、「市の様子の変り変わり」0.1 pt が平均を下回っている。</p> <p>5年生は、全国平均と比べると、6項目中5項目が平均を上回っている。</p> <p>区平均と比べると、「都道府県の様子」4.6 pt、「暮らしを支える水」3.5 pt、「ごみの処理と利用」9.4 pt、「自然災害から暮らしを守る（水害）」5.6 pt、「先人の働き」8.5 pt、「特色ある地域の様子」6.5 pt が平均を下回っている。</p> <p>6年生は、全国平均と比べると、9項目中8項目が平均を上回っている。</p> <p>区平均と比べると、「世界の中の国土」0.5 pt、「日本の食料生産」3.0 pt、「自動車をつくる工業」1.0 pt、「日本の工業生産」0.1 pt、「情報を生かした産業」0.1 pt が平均を下回っている。</p>	<p>それぞれの事象について課題意識をもったり、自分事として捉えたりする意識がもちにくい。自分が関心をもった問題と調べて分かったことを結び付けて理解したり考えたりする指導の工夫が必要である。</p>
<p>理 科</p>	<p>「令和5年度学習力サポートテスト」において、4年生と6年生は全国平均を上回っている。5年生は多くの項目で全国平均を下回った。</p> <p>4年生は、全国平均と比べると、全ての項目で上回っている。</p> <p>区平均と比べると、「昆虫の育ち方」0.7 pt、「昆虫の体のつくり」0.1 pt、「太陽と地面の様子」0.6 pt、「磁石の性質」0.5 pt が平均を下回っている。</p> <p>5年生は、全国平均と比べると、10項目中7項目が平均を下回っている。</p> <p>区平均と比べると、「一年間の植物の成長」6.0 pt、「一年間の動物の様子」7.5 pt、「天気の様子と気温」2.0 pt、「電気の働き」5.4 pt、「動物の体のつくりと運動」4.0 pt、「月と星」5.2 pt、「物の体積と力」14.3 pt、「物の体積と温度」1.7 pt、「雨水のゆくえと地面の様子」4.5 pt、「水のすがた」10.4 pt、「自然の中の水」5.7 pt、「物のあたため方」8.2 pt が平均を下回っている。</p> <p>6年生は、全国平均と比べると、全ての項目で上回っている。</p>	<p>自然現象について観察や実験を行う環境や体験する機会が少ない。また、他の教科に比べ、知識の定着を図る時間が少ないため、定着しきれていない。</p>

	区平均と比べると、「天気の変化」0.7 pt、「植物の発芽と成長」3.1 pt、「魚の誕生」0.1 pt、「植物の花のつくりと実」0.3 pt、「人の誕生」0.5 pt、「ふりこのきまり」2.3 pt、「ものの溶け方」0.3 ptが平均を下回っている。	
英語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、9項目中8項目で全国平均を上回っている。 区平均と比べると、「アルファベットの読み(聞く)」0.1 pt、「日常会話の理解(聞く)」1.1 pt、「会話全体の理解(聞く)」1.1 pt、「単語の読み」1.0 pt、「英文の完成」3.4 ptが平均を下回っている。	習った表現を活用する状況や場面設定を最終ゴールとして児童にイメージさせることに時間の確保が足りない。また、話すことに慣れるまでの十分な練習時間が不足している。
体育・保健体育	「令和5年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」において、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の平均値が、全国・都・区の平均を下回っている学年が多くあった。体幹を鍛えるだけでなく、体の柔軟性や投力、持久力の向上が必要である。	地域的特性から、運動量の確保が難しい。体を動かして遊ぶ経験やボールやバット等の道具を使う遊びの経験が乏しいことも要因である。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「話し合いの内容を聞き取る」「物語の内容を読み取る」の領域で区の平均点を上回るようにする。
	算数	「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「数と計算」「図形」項目で区の平均点を上回るようにする。
	社会	「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で国土や地域の様子、生活環境を支える活動、産業の項目で区の平均点を上回るようにする。
	理科	「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「電気のはたらき」「電流のはたらき」の領域で参加校の平均点を上回るようにする。
	英語	「令和6年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「主体的に学習に取り組む態度」の項目で参加校の平均点を上回るようにする。
	体育・保健体育	「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣調査」において、「上体起こし」「長座体前屈」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の項目で、どの学年でもTスコアが前年度を上回るようにする。
② 授業改善		タブレット端末を効果的に活用することで児童の興味・関心・意欲を高めたり、学習計画や授業のめあてを児童が明確に意識したりするなど、見通しをもって授業に取り組ませる。また、児童自身が自己の課題に気付き、課題解決に向かう授業を実践することで、学校評価の「授業の内容が分かる」の項目で、児童が80%以上を目指す。
③ 家庭との連携		タブレット端末を活用した個人の学習進度に合わせたドリル学習、児童への問題の配信、学習履歴の情報共有など、家庭と連携して個に応じた指導を充実させ基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。

④ 体力向上

マイスクールスポーツのなわとびについて、個人目標、学級目標を設定して練習に取り組み、目標を達成した学級が全体の50%以上となることを目標とする。本校の課題である投力と柔軟性の向上を図り、各学年が令和4年度の結果を上回ることを目標とする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	ドリル学習を週3日ある基礎学習の中に計画的に設定し、言語の既習事項の習熟を図るために音読や作文する活動を積極的に取り入れていく。読書習慣が付くように、継続的に取り入れ、読解力・理解力を高めていく。話し合い活動や発表の活動を積極的に取り入れ、相手意識や目的意識を明確にするためのめあてを設定し、児童が主体的に学習に取り組むようにする。話し方の話型を学年に合わせて作成し提示する。正しい漢字の使い方や、文章を書く中ですすんで漢字を活躍できているか確認する。
算数・数学	ドリル学習や100マス計算などの基礎力を高める学習を計画的に設定し、四則計算力を高める。また、各単元の指導の前に行うレディネステストで本単元の学習に必要な基礎基本の定着の度合いを確認した上で指導計画を立て、授業を展開していく。本校の補習教室である「豊海塾」では算数を特化して行い、今年度は1年生から対象を広げ、全体的な基礎基本の定着を図っていく。授業では自分の考えをまとめたり説明したりする活動を毎時間設定する。図形の学習では、具体物やデジタル教材を使うことで、空間認知力を高める。
社会	それぞれの事象について課題意識をもったり、地域素材を学習に取り入れることで、自分事として捉えたりする授業を展開し、問題と調べて分かったことを結び付けて理解したり考えたりできるようにする。視覚化した映像資料を活用し、学習内容と身近な事象を関連させて捉えられるような授業を展開し、内容の補足や定着を図っていく。
理科	自然現象について、観察や実験を行う環境を整え、方法や設定を試行錯誤したり、体験をもとに考察したりする授業展開にする。また、単元の初めと終わりには、必要な知識の確認を行ったり、ドリル学習を計画的に設定したりする。視覚化した映像資料を活用し、授業内容の補足や定着を図っていく。実験の予想を立てる際には、身近な事象との関連を理由付けとして挙げさせるなど、筋道を立てて物事を考える学習習慣を定着させていく。
英語	単元設定において、必然性のある、学習内容の選定を行い、計画を立てる。聞く活動を重視した授業展開の中、耳慣れた英語表現を使って話すことに慣れさせていく。練習時間を十分に確保し、交流する場を設け、英語で会話する機会を意図的に増やしていく。

<p>体育・保健体育</p>	<p>柔軟性、投力、持久力の向上につながる運動を予備運動に毎時間取り入れる。また、休み時間でも取り組めるような遊びを紹介し、日常化を図る。場所の確保として、体育館や屋上にも教材や場の設定を行い、少しでも体を動かせる環境を整えていく。</p> <p>マイスクールスポーツの時間を確保し、スポーツテストで課題となっていた基礎体力の向上と投力の向上に努めていく。</p> <p>学校として体力・運動能力の向上が図れるように系統的な指導計画を意識した指導を行っていく。</p>
----------------	--

② 授業改善	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>タブレット教材、デジタル教科書や大型提示装置、プレゼンテーション発表ソフト等を活用することで学習意欲を向上させ、学習への理解を深めたり自分の考えを伝えたりすることで児童の学習効果を高める授業改善を図る。</p>
<p>取組Ⅱ</p>	<p>管理職による授業観察を行い、個々の教員の課題を明らかにすることで、指導力の向上を目指し、授業改善につなげる。また、学年内での交換授業や教科担任制、OJTによる授業研究の取り組みを継続する。</p>
<p>取組Ⅲ</p>	<p>学習中に、積極的に話し合い活動を行い、友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで学習理解を深めていく。</p>

③ 家庭との連携	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>個人面談、保護者会等を活用して、児童の学習状況やそれぞれの課題を伝えたりすることで、保護者と共通理解を図りながら、連携を強化する。</p>
<p>取組Ⅱ</p>	<p>タブレット端末を中心に学校からの情報が全て確認できるようにし、子供の学びの姿や必要な情報が手軽に得られるよう classroom を活用するなどして、家庭と共有できるように取り組む。</p>

④ 体力向上	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>なわとびに継続的に取り組み、楽しさを味わうとともに、リズム感・調整力・持久力を育てる。なわとびカード、体力アップカードなど、自分の状態を客観的に捉えられるようにするとともに、一年間を通して、継続的に取り組めるようする。</p> <p>長縄記録会を複数設定し、めあての達成感を実感させ、定期的に計測したり、目標値を教室内に掲示したりして、継続的な活動への意欲とする。</p>
<p>取組Ⅱ</p>	<p>学校での取組をホームページや学校便り等で紹介し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起と、継続的な体力向上への活動を図っていく。</p>